

株式会社インタラクティブィ 番組審議委員会議事録

1. 開催日時： 平成 27 年 3 月 18 日（水）15 時 30 分～17 時 00 分

2. 開催場所： 当社会議室

3. 委員の出席：

委員総数： 7 名

出席委員数： 7 名

出席委員の氏名：

（敬称略、五十音順）大蔵 雄之助、大宅 映子、音 好宏、砂川 浩慶、中村 伊知哉、
諸星 裕、吉岡 忍

放送事業者側出席者：

株式会社インタラクティブィ

代表取締役社長 西山 彰

チャンネル銀河株式会社

代表取締役社長 関本 好則、取締役部長 住田 和嘉子

編成担当マネージャー 秋元 美加

事務局 前田 鎮男、森 綾、吉川 美幸

4. 議題

株式会社インタラクティブィで放送する 6 チャンネルの内、「チャンネル銀河 歴史ドラマ・サスペンス・日本のうた」の番組内容、編成内容について。

5. 審議内容

①「チャンネル銀河 歴史ドラマ・サスペンス・日本のうた」の編成及びオリジナル番組『主演 本木雅弘スペシャルインタビュー ドラマ『坂の上の雲』の世界』について、各委員より以下のような意見・質問がなされた。

・インタビュアーを制作プロデューサーである西村氏が担当していたが、インタビューよりは対談形式のほうがよかったのではないか。作り手としての話があっても興味深い番組になったと思う。

- ・ドラマの宣伝番組なので、主演俳優の歴史を知らない・本を読まないという発言は、ドラマに対してもネガティブな印象を与える可能性があると思った。
- ・「坂の上の雲」は我々の世代には馴染みのある作品だが、40代より若い世代は読んでいない人も多いと思う。原作を読んでなかったという発言も若い世代にはむしろ身近に感じるのではないかな。
- ・戦争や本作品を知らない世代がある、ということも、放送する側としては意識しなければならないと思う。
- ・ドラマ解説番組は、ドラマの視聴者の幅を広げる上でよいと思う。

<事業者回答>

- ・チャンネル銀河での放送はNHKから3年後なので、本番組についても、だいぶ撮影から時間が経ってからのインタビューとなった。本木さんも西村さんも当時を思いだしながらお話をされていた。
- ・インタビューについては、仰るとおり課題を認識している。収録現場でも試行錯誤の上本番組が出来上がった。
- ・本木さんは番組内では謙虚な発言をされていたが、当時ドラマの撮影に向けて、作品や歴史背景について非常に熱心に学ばれているようだった。
- ・ドラマそのものはチャンネル銀河の視聴世代に合っていたと思う。ドラマは視聴者の反響はよく、加えてBtoBにおける反応もよかった。取引先の責任者が本作品を懐かしがってくれることが多かったため、営業活動にも効果的な作品だった。
- ・ご指摘のとおり、「坂の上の雲」を知らない世代に対しては、歴史的背景から説明をする必要があると思う。同じことは中国歴史ドラマでも課題となっており、いかにわかりやすく、知らない人にも知ってもらうか、チャンネル内でも鋭意検討している。本日いただいたご助言を今後に生かしていきたい。

以上